

戦評用紙

第 1 試合

東京都ミニバスケットボール連盟 広報委員会

第12回鈴木正三杯ウインターナメント大会	開催日 平成21年1月25日(日)	会場 府中市総合体育館
男子 ・ 女子	対戦名 国分寺M B B C	VS 青葉小ミニバスケットボール育成会

第1クォーター

国分寺、青葉共にマンツーマンでスタートする。青葉は のミドルショットで先制するもすかさず国分寺の長身を活かしたポストプレーで同点とする。青葉は国分寺の高さに対してミドルショットを多投するが思うように決まらず、残り2分30秒で4対4というロースコアなゲームとなる。国分寺は を起点としてゲームを組み立てるが得点出来ず、青葉もミドルで対応するも の1本のみで1Qが終了。

(4 — 6)

第2クォーター

2Qもお互いマンツーマンでスタート。開始早々青葉 のミドル&ドライブで連続得点で4対10と突き放しにかかるも国分寺も粘り のリバンドからのショット のミドル のドライブで残り3分11秒で同点とする。青葉のディフェンスのプレッシャーが強くなり国分寺のペースが狂い始める。青葉はターンオーバーから得点を重ねていき、ディフェンスを頑張った青葉が11対18と7点差で前半戦を終了。

(7 — 12)

第3クォーター

後半戦もお互いマンツーマンでスタート。3Qも青葉はミドルショットを多投するも決まらない。逆に国分寺は のミドルが決まりだし追い上げる。青葉も のミドルで対抗するがオフェンスリバンドが思うように取れず苦戦する。国分寺 のポストから へのパスで加点し、最後に のリバンドショットが決まり26対26の同点で3Q終了。

(15 — 8)

第4クォーター

このQもお互いマンツーマンでスタート。開始早々国分寺 のポストプレーで得点しこのゲームで国分寺が初めて勝ち越すと連続で得点を重ねる。残り4分14秒、たまた青葉はタイムアウトを請求。タイムアウト後青葉はディフェンスをゾーンにするも、国分寺 の長身を活かしたプレーを抑えきれず、6点差となるが青葉は粘り強くディフェンスをする。国分寺は3-1-1のゾーンプレスで前からあたるディフェンスで対抗する。残り2分、36対30で国分寺リード。ここから青葉の猛反撃が始まり、 のリバンドショット、 のミドルショットが決まり追い上げる。残り30秒青葉 のミドルが決まり1点差とするも残り時間を国分寺は落ち着いてボールをキープして終了。国分寺が決勝に進出した。

(13 — 12)

チーム名	得点	得点	チーム名	記入者名
国分寺M B B C	39	11 — 18	青葉小ミニバスケットボール育成会	坂田 康治
-----		28 — 20	-----	所属
				高松ミニバス

戦評用紙

第 2 試合

東京都ミニバスケットボール連盟 広報委員会

第12回鈴木正三杯ウインターナショナル大会	開催日 平成21年1月25日(日)	会場 府中市総合体育館
男子 ・ 女子	対戦名 大和田ミニバスケットボールクラブ VS	多摩フェアリーズ

第 1 クォーター

開始20秒大和田 のジャンプシュートが決まるが、すかさず多摩は のミドルシュートで反撃。1分30秒後多摩のドライブが決まると、続けて のゴール下 のドライブインで加点し流れをつかむ。大和田もシュートを放つがリングに嫌われ得点出来ない。残り1分30秒、大和田 のロングシュートが決まり追い上げるが、多摩は のミドルシュートで得点を重ねて、6対15で多摩リードで第1クォーター終了。

(6 — 15)

第 2 クォーター

開始30秒、多摩 のミドルシュートが決まり第1クォーターに引き続き流れを引き寄せるが、大和田も のゴール下の頑張り得点を挙げ追い上げる。多摩は、 のジャンプシュートを確実に決めて得点を挙げ、リードを広げていく。劣勢の大和田も、 のジャンプシュートとゴール下で反撃するが、多摩の勢いを止める事が出来ない。残り10秒、大和田の速攻が決まるが14対28のダブルスコアで多摩のリードで前半をを終了。

(8 — 13)

第 3 クォーター

開始1分、大和田 のポストプレーでゴール下で得点、後半の追い上げに期待がかかる。その後両チームのディフェンスの頑張り得、一進一退の攻防が続き得点が入らない。拮抗した攻防から抜け出したのは多摩で、ゴール下のリバウンドを制して速攻に繋げ得点を挙げる。大和田は残り時間が少なくなった時間帯でリズムを取り戻し、残り10秒で がファールからのツーショットを確実に決める。第3クォーターは8対6と大和田が盛り返し最終クォーターに望みを繋いだ。

(8 — 6)

第 4 クォーター

開始早々多摩は のドライブインが決まり流れを掴むと、 が連続でミドルシュートが決めて19点差とリードを広げていく。一方大和田は、多摩の激しいオールコートのマンツーマンに対しパスで展開を図るが、なかなか得点に繋がらない。余裕の出た多摩は のゴール下、 の速攻で大和田を突き放す。終了間際に大和田も のリバウンドシュートで反撃するも、28対49で多摩が快勝。決勝進出を決めた。

(6 — 15)

チーム名	得点	<div style="font-size: 4em; vertical-align: middle;">}</div>	得点	チーム名	記入者名
大和田ミニバスケット ボールクラブ	28		14 — 28 14 — 21	49	多摩フェアリーズ
-----			-----		所属 北フープステアズ

戦評用紙

第 3 試合

東京都ミニバスケットボール連盟 広報委員会

第12回鈴木正三杯ウインターナメント大会	開催日 平成21年1月25日(日)	会場 府中市総合体育館
男子・女子	対戦名 マジックミニバスケットボールクラブ VS	そしがやレッズ

第1クォーター

マジック2-3ゾーン、レッズはプレスからのマンツーマンでスタート。レッズはディフェンスの当りを強くしボールカットを狙う。両チーム共緊張からかパスミスが多く点が入らない。マジックは のミドルポストからの攻撃、レッズは外からのシュートで攻める。レッズは速いボール回しからのロングで得点、マジックも のロングシュートと のフリースローで加点。

(10 — 8)

第2クォーター

第2クォーターもマジックは2-3のゾーン、レッズはマンツーマンプレス。マジックは を中心に攻めるが、その フェールでレッズ がフリースローを決め同点。残り5分でマジックがタイムアウト。マジック がレッズ をマークし、両チーム共シュートが決まらない状態が続くが、マジック がリバウンドを取れるようになると、パスミス等からのチャンスをものにしていき、マジックが点差を開いていく。残り3分でマジック が3ファールとなるが、逆にマジック が外から決め、更に点差が開いた。

(17 — 9)

第3クォーター

マジックは長身選手3人をローポストにした2-3ゾーン。レッズは変わらずマンツーマンプレス。互いにディフェンスの動きがよく、パスカットを狙い、ボールに飛びつき、ターンオーバーが繰り返される。レッズは のドライブ、 のロングシュートで攻めるがなかなか決まらない。逆にマジックは、オフェンス、ディフェンスの両リバウンドを がよく押さえ、得点につなげていく。ミドルポストからの のシュートが決まり差が開いた。

(15 — 8)

第4クォーター

4クォーターは3クォーターと同じメンバーでスタート。レッズの前からのプレスに対し、マジックの はボール運びを遅らせ、レッズディフェンスを引きつけディフェンスが迫ってきてから、前にパスを出す形で攻め、 が走り、フロントコートでアウトナンバーにして加点していく。レッズはその起点となるマジック をダブル、トリプルチームで押さえに行くが、逆にファールを取られる。マジックの の3枚のゴール下は強く、レッズは0度からの のロングシュートが決まらなるとそのまま速攻を決められた。レッズはマジックの高さに対し、速いボール運びとあたりの強いディフェンスでよく対抗したが、ゴール下を制したマジックが決勝に進出した。

(17 — 11)

チーム名	得点	得点	チーム名	記入者名
マジックミニバスケット ボールクラブ	59	27 — 17 32 — 19	36 そしがやレッズ	平林 昭二
-----		-----		所属 アンリミテツズ

戦評用紙

第 4 試合

東京都ミニバスケットボール連盟 広報委員会

第12回鈴木正三杯ウインターナメント大会		開催日 平成21年1月25日(日)	会場 府中市総合体育館
男子・女子	対戦名 リトルジョーダンズミニバスケットボールクラブ VS		扇MAX

第1クォーター

両チーム共にゾーンプレスで守りチームカラーが似たチームの対戦。どちらも がゲームを支配するかが勝負のカギとなりそうであった。先に流れを掴んだのはリトル。積極的にプレスを仕掛けインサイド、アウトサイドとシュートを打ち続ける。扇はボール運びに苦しみながらもフロントコートでしっかりセットして互角に戦いをする。残り2分今までリングに嫌われていた感じがあったリトルのシュートが決まり始めリトルの流れで1Qが終わる。

(10 — 4)

第2クォーター

2Q開始早々リトルのターンオーバーで得たオフェンスを扇 がプレスを潜り抜け連続で得点する。リトルはインサイドにボールを入れシュートを狙うも扇の固いディフェンスの前に得点する事が出来ない。かたや扇は速攻からの得点を重ね残り2分で1点差まで詰め寄る。ここでリトルがタイムアウトを請求。その後リトルはセンター のインサイド、パス回しからアウトサイドと得点するも扇 を止めきれず終了間際に逆点を許す。

(6 — 13)

第3クォーター

後半扇ボールでスタート。共にベストメンバーとなり、パスを回しながら様子を見る展開。扇は が一人で得点するのは対照的にリトルは のインサイド、 のアウトサイド、 のインサイドと扇のディフェンスを崩して得点を重ねる。しかしオフェンスリズムはいいものの、扇 をとめる事が出来ずアウトサイド、インサイドと変幻自在に はオフェンスを展開しリトルは逆点できないまま3Q終了。

(12 — 12)

第4クォーター

このQ先制したのは扇。速攻から が得点する。扇はディフェンスで30秒オーバータイムを取ったりオフェンスファールをもらうなど、ディフェンスで頑張りを見せる。オフェンスでもパスが回り始めアウトサイドのシュートが外れてもオフェンスリバンドを確実に取り、 のシュートが連続で決まりリードを広げる。リトルは扇のディフェンスに攻めあぐね自分達のオフェンスを展開出来ない状況が続く。残り1分リトルは攻めきれないまま9点差をつけられる。扇は時間一杯ボールを回し勝利し決勝進出。扇のディフェンスが光り、リトルは自分達のカラーを出し切れずに敗退してしまった。

(2 — 10)

チーム名	得点	得点	チーム名	記入者名
リトルジョーダンズ ミニバスケットボールクラブ	30	16 — 17 14 — 22	39 扇MAX	江森 渉
-----		-----		所属 大泉クローバース

戦評用紙

第 5 試合

東京都ミニバスケットボール連盟 広報委員会

第12回鈴木正三杯ウインターナショナル大会		開催日 平成21年1月25日(日)	会場 府中市総合体育館	
男子 ・ 女子	対戦名	国分寺M B B C	VS	多摩フェアリーズ

第1クォーター

両チーム、マンツーマン・ディフェンスでスタート。多摩Fが、パスカットから速攻に繋げて先制。その後も多摩Fが攻守に頑張り、自分達のリズムで第1クォーター序盤を9点リード。一方国分寺は、多摩Fのディフェンスに苦しみながらも、残り3分15秒にフリースローで初得点を挙げる。その後少しずつ自分達のリズムを取り戻し、このクォーター後半を制して9対11まで追いつけて終了。

(9 — 11)

第2クォーター

第2クォーターも両チーム共、マンツーマンディフェンスでスタート。国分寺がフリースローで同点に追いつくが、多摩Fのディフェンスの頑張りによってオフェンスが出来ない状態。一方多摩Fは第1クォーター同様チーム一人ひとりがディフェンスを頑張り、相手ミスを誘い速攻で加点。その後も自分達のバスケットを展開し、終始リードして終了。このクォーターを含めた前半は、多摩Fの10人レベルの高さが光ったクォーターとなった。

(6 — 12)

第3クォーター

後半のベスト対決。国分寺はマンツーマンとオールコートのゾーンディフェンス。多摩Fはマンツーマンでスタート。滑り出しは、国分寺がピックセンターの を活かして得点を挙げる。その後も自分達のリズムで試合運び、得点を重ねる。その後もゾーンプレスで多摩F苦しめ、速攻・アウトサイドシュートと、完全にゲームを支配する。一方多摩Fも苦しみながらも得点を挙げるが、単発な攻撃に終わる。国分寺のベストチームは前半のチームとは別チームの動きとなり、一気に逆転して終了。

(16 — 6)

第4クォーター

国分寺のリズムは第3クォーターと変わらず、自分達のリズムを継続して先行スタート。一方多摩Fも優勝への意地をみせて同点に追いつく。引き続きディフェンスをオールコートのプレスを仕掛けるが、国分寺の落ち着いたボール運びでリードを奪えず、タイムアウトを取り起死回生を狙う。再開後も国分寺の のセンターを活かしたプレーで加点され惜敗。国分寺が9月の優勝大会に続いてウインターカップも制し2冠を達成。全国大会の切符を手に入れた。優勝を争うに相応しい、ナイスゲームであった。

(8 — 3)

チーム名	得点	得点	チーム名	記入者名
国分寺M B B C	39	15 — 23	32 多摩フェアリーズ	星 光男
-----		24 — 9	-----	所属
				恩 方

戦評用紙

第 6 試合

東京都ミニバスケットボール連盟 広報委員会

第12回鈴木正三杯ウインターナメント大会	開催日 平成21年1月25日(日)	会場 府中市総合体育館
男子・女子	対戦名 マジックミニバスケットボールクラブ VS	扇MAX

第1クォーター

機動力と高さのマジックがオールマイティガードを有する扇か、お互いによく訓練された好チーム同士の決勝戦は準決勝とは違った陣容で始まった。1Q開始中盤まで消化不良気味のマジック に対して扇の はカットイン、ミドルショット、ゴール下と文字とおりオールラウンドに活躍する。両チーム共オールコートプレスからハーフの3 - 2、2 - 3と守りを重視したディフェンスを繰り広げるゲーム展開で点を取り合い1Q終了。

(12 — 11)

第2クォーター

準決勝と1Q、2Qのメンバーをそっくり入れ替え を休ませる作戦に出た扇に様々なミスが出てしまいこの試合の大半を決める大事なクォーターになってしまった。マジックはオールコートプレスで が扇をかく乱しミスを誘う。このクォーターの扇の得点は のドライブイン1本とフリースローの4点のみとなった。

(20 — 4)

第3クォーター

扇のオールコートプレスでの巻き返しが始まった。きついプレスに3Qの3分過ぎからマジックに疲れが見え始める。その隙をついて容赦なく繰り返される扇の を中心としたプレスディフェンスに初めてこのQ扇の得点を上回った。1Qに不調だったマジック も頑張るが、ファーストパスで扇のディフェンスにはばまれ、なすすべなく3Q終了。

(13 — 14)

第4クォーター

18点差という大差を詰めていくにはオールコートのプレスしかない。相変わらず扇はオールコートでマジックを攻め立てる。得点は扇 が高い確率でシュートを決めオールコートプレスをかわしシュートをするマジック と の高い確率で取るリバウンドで、やや分がよいマジックに本当にしつこくつきまとう扇、残り1分で僅差まで追い上げた扇。55 - 49で3ゴール差。残り4秒扇 のシュートが決まり57 - 54。ブザーがなり試合終了。扇は2Qの劣勢が悔やまれる。マジックは9月の優勝大会に続き2大会連続で優勝した。

(12 — 23)

チーム名	得点	得点	チーム名	記入者名
マジックミニバスケット ボールクラブ	57	32 — 15 25 — 39	54 扇MAX	塚本 篤
-----			-----	所属 日野サンス